

園長先生の子育てひろば

令和6年9月

園長 堀田 あけみ

まだまだ暑い日が続きますが、秋の気配も感じられる気がします。気がつけば、日が短くなっていたり、アカトンボが群れをなしていたり。幼稚園では、行事が盛りだくさんの2学期が始まりました。

幼稚園が再開して、まず始まるのが運動会の練習です。小学校では5月に開催されることが多いようですが、幼稚園では体育の日の連休に合わせて行います。5月だと年少さんは、ちょっとそれどころではないかな、という感じ。4月の入園式では、泣いている子や、お席でじっとしてられない子がたくさんいました。でも、運動会ではちゃんと走って演技して、大きくなったところを見せてくれるはずですよ。

でも、それができない子も出てきます。一所懸命練習したのに怪我や病気でお休みすることもあります。それから、みんなと一緒に行動を嫌がったり、ふざけてしまって同じようにできなかったりということもあります。前者の事態が起こったら、ご家族のフォローが必要です。後者のケースは複雑で。要は、親が楽しみにしていたのに、それに応えてもらえなかったってことなんです。これは、私が親としてさんざん経験してきたことでもあります。そのときにいかに事態を受け入れるか。小さい子なんだから、気持ちがそっちを向かないこともあってあたりまえです。でも、ほとんどの子ができていることをうちの子ができない事実と折り合うのは、多くの親にとってそれほど簡単なことではありません。

そんなとき、私は「待つ勇気」を持ってほしいと思います。子どもの頃の小さな「できない」を圧倒するできごとが長男が16歳のときに起こりました。いじめに端を発するうつ発症で、家から出られなくなりました。「無理しなくていい」「学校に行かなくていい」「起きなくていい」、それらの言葉を一つずつ、私は勇気をもって絞り出してきたと思います。夫は「待ってて治るわけない」と怪しげなサプリを勧め、高額な診療代を提示する医者に頼ろうとしました。一つ却下すると次が来る、を繰り返して、その提案をする人もいなくなり、彼は病気と共存しながら、支援を得て社会と付き合っています。けして順調に生きているわけではないけれど、誰かを不幸にしない生き方をできていると思います。

他人を傷つけたり不快にすることに対しては、厳しく戒めても良いと思います。「しない」ことは、するように導けばよいと思います。でも、「できない」は勇気をもって受け止めて、そして待つしてほしい。走れなくても、遅くても、転んでも、抱きしめてくれる腕がその子の傍にあってほしい。運動会を楽しみにしている子ども達とご家族の姿を見ながら、強く思います。

